

櫻製作所 部品摩耗抑え小型化

掻取り式熱交換器投入

櫻製作所（大阪市淀川区、井上正基社長、06・6302・5321）

は、同社従来器より小型化した掻取り式熱交換器（写真）を開発した。熱伝導面や掻取用の金属部

材を刷新。熱伝導効率を1割向上し、部品の摩耗も抑えて小型化した。モ

ーターが小型で済み、省エネルギーにつながる。食品や化粧品、医薬品の

生産ラインへの採用を進める。価格は2400万円（消費税抜き）から、20

15年度に5台の販売を目指す。

同熱交換器ではドイツ製が普及しているが、部品調達が難しいほか、操作も欧州式で使い勝手とアフターサ

ービスが課題だった。櫻製作所は国産の強みを生かして普及を図る。価格もドイツ製より2割程度低価格に設定している。

掻取り式熱交換器は粘度の高い原料をかき混ぜながら加熱・冷却することで、殺菌や調合ができる生産プラント内の装置。特に食品や化粧品業界で需要が増えている。

櫻製作所は今後、ドイツ製や自社製品から新製品への移行を狙う。加えて市場の拡大に伴い新規需要を取り込み、19年度に年間20台の販売を見込む。開発には経済産業省の「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」を活用した。

平成26年12月5日

日刊工業新聞

掲載記事

